

第3回国立市南部地域整備基本計画の策定に伴う 市民討議会実行委員会記録（要旨）

日 時：平成20年11月19日（水）午後7時00分～午後9時40分

場 所：市役所3階 第1会議室

出席委員：7名

欠席委員：2名

傍 聴：2名

事務局：3名

会議資料：①市民討議会の準備について

②テーマの選定に関する資料

③参加依頼書に関する資料

④国立市都市計画図

⑤実行委員会の日程について

⑥国立市南部地域整備基本計画の策定に伴う市民討議会実行委員会委員名簿

1. 開会挨拶（小林委員長）

- ・お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

2. 第2回実行委員会議事録の確認

- ・事前に送付した第2回実行委員会議事録について、昨日までに事務局へ追加や修正等の意見がなかったため、改めて意見を伺ったところ特に意見もなく、送付されたとおりで了解された。

- ・配布資料の確認（事務局）

3. 市民討議会の準備について

- ・時間配分の関係から、次第の順を入れ替えて話し合うこととなった。

（1）周知の方法等について

【主なご意見】

- ・市報12月20日号以降の号で参加承諾書の締切日を1月29日としているが、何に基づいてその設定となったか？

→封筒印刷や無作為抽出等の作業に1ヶ月程度かかることを勘案し、開催日の1ヶ月弱前を締切日として考えた。

- ・実施日までもう少し時間的余裕を持たせた締切にしておく方が良いのではないかと
思う。参加承諾者が少ない場合の対応について、事務局として何か考えているか？
→時間的に難しいということは認識している。年末に参加依頼書を発送すると年末
年始の期間に仕舞い込まれてしまう懸念があるが、12月中に発送することも
検討できる。参加承諾数を上げるための方策は、実行委員会の集約によって対応
していきたいと考えるが、締切前に「出し忘れはありませんか」という通知を送
ることや、無作為抽出数を予め多めにしておき締切時の参加承諾数の状況により
2回目の依頼をかけることなどの対策を事務局としては考えている。
- ・参加依頼書について2回目の発送にかかる予算は確保してあるのか？それとも参加
承諾の人数を見て、緊急対応ということになるのか？
→2回目の発送費用は予算確保していないため、緊急的に対応することになる。
- ・参加率が少しでも上がるために、最初に依頼する1,000人の中の掘り起こしを
行う、その方策を実行委員会で考えることになると思う。
- ・通知文などによる掘り起こし対策をしても承諾書の提出が少ない場合、1月29日
の締切りだと時間に余裕が無いように思える。そのような状況になった場合は、臨
機応変の対応が必要となると思う。
→締切期日前に通知文を送るなど、返送率を上げる方策も必要と考えている。
- ・市報には大テーマを紹介する程度にとどめ、小テーマを載せないほうが良いと思わ
れる。ドイツでは、事前に討議の小テーマを案内すると、ステイクホルダー（専門
家や強い意見の持ち主や利害関係者）が論陣を張ることがあるため、小テーマを事
前に明かさないのが通常である。当日にテーマを発表し、強い意見のある方でも他
の参加者と同じように話し合っただけなのが市民討議会である。
- ・市民討議会という手法がそういう原則なのであれば、市報には大テーマのみの掲載
で良いと思う。
- ・市報原稿案について「話し合いには参加できませんが傍聴することができます」と
いう表現は、「傍聴」の言葉の意味から考えると文章としておかしいのではないか。
→立川市で市民討議会を行った際、傍聴に来た方が発言できないことに驚いていた
という経験があったため、前回実行委員会で、チラシ等にきちんと書いておいた
ほうが良いという意見があった。
- ・言葉の順番を入れ替え「傍聴なので話し合いには参加できません」としてはどうか。
- ・市報は1ヶ月前に原稿締切りとのことだが、1月29日を参加承諾の締切日として
2月5日号に参加承諾数を載せることができるのか？
- ・本来は人数が集まった時点で報告できることが良いのだが、参加承諾者があまりに
も少なかった場合、市報では人数に触れないほうが良いのではないかとと思う。
- ・状況によっては、ある時点の報告という文章でも良いと思える。人数が少ないこと
が紹介されると、市民の市民討議会に対する印象に影響することが危惧される。

- ・参加承諾人数の市報への公表については、柔軟な対応をお願いしたい。

【集約】

- ・参加承諾書の提出締切は、当面、1月29日としておく。
- ・市報には小テーマは掲載せず大テーマのみ紹介する。
- ・傍聴に関する文章を「傍聴なので話し合いには参加できません」に変更する。
- ・参加承諾者数を市報へ掲載するかどうかは、柔軟な対応とする。

(2) 参加依頼書について

【主なご意見】

- ・参加依頼書にはまだ余白があるので、南市民プラザの地図を入れると良い。
- ・託児等のサービスは誰が行うか？
→託児は有資格者を配置する方向で立川青年会議所と協議している。託児室は会場の南市民プラザ内とする。手話通訳は市で対応する。
- ・託児について、資料の予算の欄にはまだ明記されていないが、立川青年会議所の理事会の承認を得たのち実行委員会に報告しご意見いただきたい。
- ・送迎バスは市役所発としてはどうか。
- ・市役所から南市民プラザ行きのコミュニティバスもあるので、既存のバスの時刻表も載せておくと良いと思う。
→参加依頼書にてご案内したい。
- ・日野市の事例では、バス1台で人が集まりやすい拠点を何箇所か経由して会場へ到着するようにしていた。国立駅→谷保駅→矢川駅→南市民プラザのルートとすれば網羅できるのではないか。各拠点での出発時間を明らかにしておけば、バス1台であっても対応できるのではないか。時間はかかるが、利便性はあると思う。市の負担も考えるとバス1台で良いのではないか。
- ・南市民プラザには利用者駐車場はなく、付近に有料駐車場もないため、参加依頼書に車での来場は遠慮いただくよう明記しておく必要がある。駐輪はまかなえる。
- ・都営住宅の居住者から苦情のないよう、近隣の路上駐車禁止も明記する必要がある。
- ・先ほどの議論のとおり参加承諾書にも大テーマのみの記載とした方が良い。
- ・参加定員数は「50人前後」と含みを持たせた表記の方が良い。
- ・参加承諾書の提出締切日は、必着なのか消印有効なのかといったことを明記しておく必要がある。そういった細かなことで問い合わせが多くなる。
- ・他市の事例でも返送率は10%を超えたことがなく、最低で3.2%という事例もあった。承諾書を出すかどうか迷っている方への対応を考えるべきである。事務局に「私なんか参加して大丈夫か？」というような問い合わせがあったら、安心感を与えるような対応をしてほしい。アメリカのDTという市民参加手法では、対象者への積極的なアプローチを行い、参加できない条件を取り除くことまで主催者が

手助けすることもある。

- ・参加を迷う方の対策を考えなければならない。
 - ・参加承諾書はできるだけ簡易にすべきで、参加する、しない、迷っている、などの選択肢に丸をつけるだけ程度とした方が良いのではないか。迷っている人に対しては、事務局から電話、FAXまたはメールの連絡方法を尋ねる形にしておくが良い。
 - ・確かに「承諾書」という言葉では怖気づいてしまう。いろんな方に来てほしい会議なので、堅い言葉は省く方が良い。「参加申込書」はどうだろうか。
 - ・「参加を承諾します」ではなく「参加を希望します」でどうだろうか。
 - ・署名だけでなく押印も求めると責任感を感じてもらえるのではないか。
 - ・託児、手話、介助等も、この段階で詳細を聞かず必要かどうか丸をつけてもらうだけとし、後日個別に連絡してみてもどうか。
-
- ・参加者への謝礼は1日単位で払うのか？1日参加の場合いくらか？決定しておいたほうが良い。
 - ・1日参加を認め、2,000円の謝礼でどうか。
 - ・原則として2日間参加とし、1日のみ、半日のみ、遅刻などは例外的対応として考えておく方が良くと思う。
 - ・他市の事例では、2日間を原則とし、あとから事情により1日参加の場合には半額支給とした。そのような方法をとることで、参加人数を確保できた側面もある。
 - ・1日のみの参加で討議への支障はないか？
 - ・2日間の市民討議会で、参加人数が片方の日に極端に偏った事例はなく、1日参加であっても、テーマごとにグループを入れ替えるので、討議への支障はない。ドイツでは4日間の出席が原則となっているが、今回、理想を追求するか、参加しやすいようにするかの判断だと思う。
 - ・参加率のことを考えると、1日単位の参加を例外として認めることとしてはどうか。
 - ・原則2日参加と表記し、「何かありましたらお問い合わせください」と記載しておくが良いと思う。謝礼額は半額の3,000円で良いと思う。
-
- ・不参加者の理由を聞く必要があるだろうか？プライベートなことを聞くような気がして抵抗がある。
 - ・他市ではたいてい、次回以降のために、不参加理由を聞いている。他の行事と重なってとか、場所が不便とか、仕事のためなどの理由を把握することで次回の日程設定に生かせる。
- 国立市として次回の実施が予定されていないため、事務局としてはこの承諾書は参加意向の方だけが返送していただければ良いと考えている。実行委員会で検討いただきたい。

- ・立川市での事例では、「参加したいけれど都合がつかない」という声もあった。こういう意見もあるということや欠席理由がわかれば、次の機会に参考になるのではないか。また、報告書に載せる内容ともなる。
 - ・不参加の方はほとんど返送しないと考えられる。不参加でも必ず提出してくださいということは強制的な印象となるので避けたい。
 - ・他市の事例では、1,000人に出した場合の返送数は多くて400通、少ない事例では170通であった。
 - ・参考のため理由をご記入ください、程度で良いのでは。
 - ・理由を書くより項目に丸をつける方が記入しやすいと思われる。
→アンケート的なことも挿入することで了解した。
-
- ・城山の写真を使ってチラシの案を作ってみた。会場の地図や、討議方法なども裏面に記載すると良いとは思っている。
 - ・小テーマはチラシにも表現しない方が良い。
 - ・ポスターに写真を用いる場合は、撮影場所などを注書きすると、南部地域のPRになって良いと思う。
 - ・写真によって市民討議会についてのイメージを植えては討議に支障があってはいけないので、注書きは入れない方が良いのではないか。
 - ・事務局で使用できる写真はないか？
→南部地域については、インター周辺、崖線、府中用水の流れなどをシンボリックに使われることが多いので、探すこととする。
 - ・ポスターはチラシと同じ雰囲気のものの方が効果的と思われる。ポスターは片面にすべて表現するため、チラシ裏面の内容のうち必要な事項をポスターの表面に配置する。
 - ・ポスターはパッと目立つものにして、文字は少なくとも良い。
 - ・他市では、予算の関係からか、簡単なポスターが作成されている。町田市ではメンバーの中にデザイナーがいたこと、三鷹市では絵の上手な市職員が作成したとのことである。
 - ・立川のチラシのキャラクターは、立川青年会議所メンバーの作である。
 - ・ポスター、チラシ案は委員長と事務局で打ち合わせし、次回実行委員会に改めて提案する。皆さんから何か提案があれば委員長もしくは事務局へ連絡ください。
-
- ・開催時間であるが、1日3コマの討議を行うとすると10時から4時30分では無理と思われる。行政からの挨拶等の時間や、討議に関する説明なども必要となる。念のため9時30分から5時としておいてはどうか。以下はプログラムづくりと関わってくることであるが、現地見学など体験型のコマとすれば情報提供の時間は不要となるし、最後のまとめの討議を情報提供不要とすることも可能である。

(3) 無作為抽出について

【主なご意見】

- ・ 無作為抽出システムとはどういったものか？
- ・ コンピュータのランダム機能を使って、指定した条件で指定した人数を抽出する仕組みである。どの行政にもこのシステムが導入されている。
- ・ 外国人登録者も対象とすると通訳が必要となる可能性がある。これまでの他市の事例では外国人登録者を対象としているものはない。来年、新宿区で外国人登録者も含めた市民討議会を検討しているとのことである。国立市に外国人が多いようであれば検討する必要がある。
→外国語通訳については未検討であった。市内には一橋大学の留学生が多いほか、アジア系の方も多い。相談会など福祉行政としての取り組みは行っている。
- ・ 外国人登録者は疎外できないものと思われる。たとえば本人が通訳を同伴し、市から助成金を出すなどの方策も考えられる。
→予算として計上しておらず対応も難しいため、申し訳ないが今回は外させていただきたい。
- ・ 今回は外すとしても、将来への課題ではある。
- ・ 18歳以上としているが、若者の参加は得られるだろうか？他市の実績はどうか？
- ・ 事例では、抽出条件は16歳以上、18歳以上、20歳以上、と多様である。抽出結果の年齢分布を見ることは、無作為抽出システムの目的外利用となるため、できない。実際の参加者の年齢分布は当日アンケートによって把握するしかない。事例では、若い人の参加はやはり少ないのが現状である。
→大学生が比較的多いことから、大学生の参加も得られるのではないかという期待もあって、18歳以上と提案している。
- ・ 事例では謝礼が上がると若い人の参加も多い。若い人の損益分岐点は1日あたり8,000円と聞いたことがある。

(4) テーマについて

【主なご意見】

- ・ 大テーマについてだが、前回の議論で「まちづくり」という言葉も良いという意見もあったことであるし、「南部のまちづくり」はどうだろうか。
- ・ 地区説明会の報告を読んだところ、会場によって参加者数がバラバラであるが、どのように地域を分けて開催したのか？
→公共施設10箇所を拠点として、地区を限定せず開催した。結果として住まいの近くの会場へ参加したようであった。
- ・ 非常に多岐にわたった意見が出されており、絞り込みが大変だと思われる。

- ・本日の説明資料は住民意見が要約されており、全体を把握するという点ではやはり説明会議事録を元とした方が良いと考える。
- ・出された意見をすべて書き出し、グルーピングし、共通しているもの又は対立しているものといった全体の構造を捉える。たくさんの意見を分類整理していくと、単純な構造図ができる。他市の市民討議会ではこのような丁寧な作りこみはしていないと思う。経営コンサルタントやドイツのプラーヌクスツェレの手法に近いと思われる。ドイツでは公聴会よりも利害関係者や有識市民などで円卓会議という場でこのような意見出しを行っている。このような意見分類をするのは、実行委員の意見が入らないよう、意見集約を誰が見てもわかり納得できるように数値化することが求められるからである。
- ・昔、K J法という手法で意見出しや意見分類をしたが、似ていると感じる。
- ・K J法の応用と考えられる。
- ・地区説明会の記録を元にした市民討議会にしていくべきと思う。そのため、分類作業の時間をもちたい、有志でもかまわないと思うが皆さんどうか。
- ・労力はかかるが、ノウハウの面からも今後の国立市にも有益なこととなると思う。
- ・その作業を通じて大テーマも出てくる可能性がある。
- ・本日の資料に記載されている計画について、近年の事業実績がわかる資料があれば出してほしい。

【集約】

- ・テーマは、地区説明会の意見を分類したうえで検討することとなった。

(5) 情報提供者について

- ・テーマ決定後に具体的に検討することとした。

4. その他

- ①第4回実行委員会は12月3日（水）18時から開催し、地区説明会で出された意見の分類作業を行うことで確認された。
- ②作業の準備として、事務局で地区説明会の意見に通し番号を振り、意見1つにつき1つのカード（付箋紙）を用意することとなった。

以上